

令和四年度学校文集【令和五年三月その二】
ひらやま 十七号

〔日向市いのち・愛・人権展〕
《作文の部入選》

やさしさ
三年一組 久徳 航平

うぼし みま友でとー遊なみ次とーか うしりしり
とくくぼにしだすさぼぶりがの、いけそらた、たでぼ
思がしくなたち。そく日まと日言つらんや。図。学く
い友てはり。にそわたにしてかわしれなまた。友書屋校は、
まだも、まそ話れれち他たもられよま時しちつ室休が、
すちら最しししかてのの。樂、てにしにいが
°につ初たてから、チチ届し学勇遊た、な遊行はつ年
やた友。けはとー！休い校氣ぼ。先どんて一不ん
さよだ 学らてムみのがう一生思で讀人安校
しうち 校れ自もにのでとじ出。人やいいで遊書いて
くにや がる分うもに人は思ゆてで友まし
し ぼよかれ入にえ業きいだした。るのをしんつ
てこ生 くうらしつもみるやま
あんに のに先かて、んよ う届た。
げどや 楽な生つ。 しりやた」 時に声を
よはさ でに休見ていいば
た

「うれば、さういふに叶はぬ。」

うれしこどもたぐさんかわいい
二年一組 布井 奏多

たかさてすち どすけけびゆがの夕日らるのは、
ちなんい。や私か。てなよう多内リにもけ中、人
をしいるでんは、どほいうしいよ！家つんで人け
助いる子もに、なれご子をたでうを庭り自がん
けでこや世と家い、しもさのす家すは見でい。
由人で
たすと、のて族い、れ話る族。家まNるるすにとなり
り。をな中もやど楽る、子の都族すHけべ考しん
おで知やに大は多いどにもやかテドなり。人自の社?
世もりんは切あいこもぎの病ら！キど
話そまで大にち内とのや話氣山マユの私が由会
すんしい変にち内もおく、のおにメドはうに会
るなたるなさやよあ話た学親くしんキ、ま行の
人大。人思れんうあ話た学親くしんキ
た変ともいておでるない校のにたタユ休れ動ルけ
ちなてたをいじすけどをにかいおりメみなで！ん
も人もくしまい。れで受行んじ話 | インのがきルと



でなとたでこつです樂だいはす得う
まにて記いとた自^{。しけたば}。る機今
ち教も事るがり分若いがい広だ人会の
がえうやので、がい記書でいかがが時
いたれ知でき地文目事かす世ら少増代
さくしつ、ま域章でもれ^{。代身なえは、}
がないて日すのをはたて新の近く
しり気い向[。]行書、くい聞人にな新イ
やま持る市私事く学さるに々あつ聞ン
クすち人がはや時生んわはにるてやタ
口[。]にが取日出のの書け、活新しい本[।]
スまな載り向来ヒ作いて難用見るかネ
ワたりつ上市事ン文てはししをとらツ
[।]、たげにをトをあないても思情ト
ド家みらら住知に読りく内もつい報を
・族ん、れんるなんま、容らとまを使

識近もすそ分ム！の！政魅書出を崎新
ニをに勉。のか欄ス感ツ治力いた読日聞私
思たあ強改意らをが想なやがてしん日活は、
いくるにめ味な讀簡がど經ああはで新用
まさ新なてをいん単書の済りり、い聞法五
すん聞り讀ノ漢だにかニ・ま、筆るのが年
°吸にまみ！字後分れコ国す讀者こあ生
収目す直トがにかて！際。者のとラりの
でを。しにあ、りおス情の体でムま頃
き通だて書っそまりに勢心験す欄すか
生すかみきたのす、関・ことをひやくくそ続
活だらる留ら文。前連医にけことめ、章私日し療
にけことめ、章私日し療をもひきつ経験ししはて
活でそ、て漢のはのた・とけ談おお、い
かも、とい字中コニ筆スに、るがの「宮
せ知身てまとにラユ者ボ

私の新聞活用法
六年三組 木口友花

つたにすいでめなべたりする生にるてのと/orい人のことよついのうもな人をとやと思んだけを思さ思いがりまいます。持たれた。ちて私は、そ幸をものせ

三年三組のいいところ
三年三組 吉田 愛花

新学たとス開聞い習めいをべか今すには。し日、け日し日こな、まい文とに発みにとさしるつ授た作芸て、行の発がらくンプロト業品のも分さ一行でにコニミレ。いなば短読かれつさき家ユな、る習つか歌みりるでれま族ユなど、のつとりかやや新するすの一ヶでたくり併すす聞。宮。きケ、で、こじで匂いくのこ日そす、頭復と、参・で書内どこしなシを使習が、考詩すい容もどてを、ヨニテにテジにな。てを新も、よんいもスやなど特いこ聞新毎りいなトゼりするどは聞週深がなり形ミまば、のも、も土めとが